

I. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

魏晉南北朝の動乱時代は、国家の統制が弱まる状況の中で、文化的な側面において新しい展開がみられた。学問・思想では、国家秩序維持に役立つ儒教はおとろえ、^(a)老莊思想を中心に俗世間を離れて議論にふける清談が流行した。代表的な人物として阮籍や (1) (2) らが活躍した。科学技術では、王叔和による『傷寒論』の再整理、祖冲之による円周率の算定、さらに (3) (4) の『水経注』など実用的な著作や発明が続出した。宗教では、^(b)インドにおこった仏教がこの時期に中国で広まった。4世紀はじめに、西域の僧侶 (5) (6) が洛陽にきて、約900の寺院をつくって仏教を広めたとされる。約1世紀後、(7) (8) が涼州や長安に渡来し、仏典の漢訳に活躍した。経典を求め、インドへ旅に出た中国僧もいた。そのひとり (9) (10) であり、のちに訳経に努め、『仏国記』を著した。一方、道教もこの時代に成長した。道教は、後漢末の太平道・五斗米道を起源とし、神仙術と結びついて、(11) (12) により新天師道として確立された。文学・芸術では、江南において、豊かな風土と戦乱の少ない好条件に恵まれ、創作活動が盛んになった。田園風景を讃えた詩人の (13) (14)、書聖と呼ばれる (15) (16)、『女史箴図』を描いたとされる (17) (18)、いずれもその道の祖として尊ばれている。ほかには、^(c)優れた詩文の集大成である『文選』も世に出された。

その後、隋唐時代に入ると、南朝と北朝の伝統が融合される一方、異文化の流入により様々な変化が現われた。儒学では、古典の整理がすすみ、(19) (20) が五經の解釈を統一した『五經正義』を編纂した。宗教の面では仏教が全盛期を迎えた。^(d)国家保護のもとに仏典の漢訳が精力的に行われる一方、(21) (22) を開祖とする禅宗や (23) (24) を開祖とする浄土宗など、庶民の心をとらえた仏教が広まった。^(e)このほか、唐代三夷教と呼ばれる外来宗教とイスラーム教の流入もあった。唐代文学では詩文が重んじられ、詩仙・詩聖と称される李白・杜甫を頂点として、唐詩は中国文学史上で最高の傑作とされる。文章においては、儒学の復興と共に、漢以前の古文の復興を提唱した (25) (26) が活躍した。芸術においては、書道の初唐三大家、人物画の名手 (27) (28)、細密華麗な山水画に秀でた (29) (30) が現われた。工芸では、唐三彩という人物像・動物像の陶器の技法が発達した。一方、貿易商人や留学生、朝貢使節たちの往来が盛んになったため、諸外国の産物・音楽・習俗がもたらされた。日本の正倉院の宝物をはじめ天平時代美術工芸品・建築も、唐における東西の文化的交流を反映するものとされる。

魏晉南北朝から隋唐までの文化や思想の流れは、周辺諸民族にも様々な影響を与え、東アジアの歴史に大きな遺産を残した。宗教に関しては、新羅や日本では、学者や高僧の往来および漢字の共有により仏教文化が伝えられた。唐の僧侶の (31) (32) は苦難の末に来日し、唐招提寺を建立し、仏教の伝来に努めた。雲南のチベット=ビルマ系の南詔では、唐文化を取り入れ、漢字を公用化し、仏教を奨励した。吐蕃では、国王の (33) (34) の妃として、唐から迎えられた皇女のおかげで、制度・文物をはじめ唐文化が流入した。ヴェトナムも、古く秦の始皇帝の遠征や漢の武帝の征服以来、中国と密接な関係を持った。唐は、622年にハノイに大総管府をおき、^(f)679年安南都護府をおいた。国家建設においては律令体制に基づく制度の広がりが見られ、朝鮮半島の新羅は、律令や郡県制を取り入れ、^(g)独特な貴族支配による官僚国家をつくった。日本でも、大化の改新を契機に、中国の律令を積極的に摂取し、租庸調制を推進した。土地制度においても唐の均田制にならって班田収授法を実施した。一方、隋唐300年の都となった長安の市街づくりも独自性にみちた都城プランとみとめられ、^(h)当時、周辺国にとって模倣的にもなった。

問1 文中の空欄 (1) (2) ～ (33) (34) にあてはまる最も適当な語句の番号を下記の
選択肢から選び、解答用紙A（マークシート）の解答欄 (1) ～ (34) にマークしなさい。

- | | | | |
|--------------|---------|-----------|--------------|
| 11 慧遠 | 12 閻立本 | 13 王羲之 | 14 王重陽 |
| 15 王仙芝 | 16 欧陽脩 | 17 欧陽詢 | 18 賈思勰 |
| 19 葛洪 | 20 鑑真 | 21 韓非 | 22 韓愈 |
| 23 鳩摩羅什 | 24 孔穎達 | 25 嵇康 | 26 寇謙之 |
| 27 顧愷之 | 28 蔡倫 | 29 司馬炎 | 30 周敦頤 |
| 31 昭明太子 | 32 褚遂良 | 33 曾鞏 | 34 蘇軾 |
| 35 ソンツェン=ガンボ | 36 大祚栄 | 37 ダライ=ラマ | 38 達磨 |
| 39 張角 | 40 張衡 | 41 張陵 | 42 ツォンカパ |
| 43 鄭玄 | 44 鄭和 | 45 陶淵明 | 46 白居易 |
| 47 仏図澄 | 48 文成公主 | 49 法顯 | 50 モンテ=コルヴィノ |
| 51 陸九淵 | 52 李思訓 | 53 酈道元 | 54 完顔阿骨打 |

問2 下線部 (a) ～ (h) について、以下の (1) ～ (8) の設問に答えなさい。答えはいずれも解答用紙
Bの所定の欄に記しなさい。

- (1) 下線部 (a) について、老莊思想の中心的な考え方を4文字で表しなさい。
- (2) 下線部 (b) について、北魏時代に建設が始まった山西省大同の郊外にある大石窟寺院を何というか。
- (3) 下線部 (c) について、南朝の斉・梁時代に流行し、対句を用いることを特徴とする華麗な文体を何というか。
- (4) 下線部 (d) について、仏典の漢訳にも専念した玄奘が書いたインド旅行記を何というか。
- (5) 下線部 (e) について、唐代三夷教の一つであるネストリウス派キリスト教の中国名を書きなさい。
- (6) 下線部 (f) について、唐から安南節度使として任命された日本人の名前を答えなさい。
- (7) 下線部 (g) について、当時の新羅で出身氏族によって身分の高下が決まる社会制度を何というか。
- (8) 下線部 (h) について、当時の渤海国で長安の都城制にならって造られた都を何というか。

II. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

7世紀に誕生したイスラーム教勢力は急速に拡大したが、初期の体制ではアラブ人支配層が特権を有し、被征服民はムスリムであっても差別されていた。やがて、税制改革や非アラブ人ムスリムの官僚への登用などの方策がとられ、民族をこえてイスラームにもとづく^(a)体制が (35) (36) 朝の時代までに成立した。このため、被征服民の改宗は以前にもまして進展し、各民族文化と融合した多様なイスラーム文化が形成されていった。しかし同時に、さまざまな政治権力が各地で自立するようになり、政治的統一は失われていった。

こうした政治的分裂の早い例としては、イベリア半島の (37) (38) 朝が挙げられる。この王朝は、フランク王国などのキリスト教勢力の南下に対抗しながら、10世紀の (39) (40) ^(b)のときに最盛期をむかえた。彼はシーア派のファーティマ朝に対抗して (41) (42) の称号を使用したので、イスラーム世界の政治的分裂はさらに深まった。一方、首都の (43) (44) では、学芸が振興されるなど、高度なイスラーム文化が花開き、やがてその成果はキリスト教世界へも伝わっていった。

この王朝が衰退したあと、イベリア半島のイスラーム勢力を支えたのは、 (45) (46) 地方に住むベルベル人たちである。11世紀半ばに彼らの間ではスナ派復興運動がおり、 (47) (48) を都とするムラービト朝、ついで (49) (50) 朝が成立した。

ムラービト朝は、西アフリカにもその勢力を拡大している。当時の西アフリカには金を豊富に産する (51) (52) 王国が栄え、北アフリカの商人が訪れて交易をおこなっていた。ムラービト朝によってこの王国が滅ぼされると、この地域ではイスラーム化が進展し、イスラーム教徒を支配階級とする (53) (54) 王国、15世紀には (55) (56) 王国が誕生し、北アフリカとのサハラ交易に ^(c)よって隊商都市が繁栄した。

東方に目を転じると、イスラーム世界の多様化を推進したのは、イラン人とトルコ人である。イラン系ムスリムの勢力は9世紀後半に強まり、 (57) (58) 朝ペルシアの貴族の系譜を引く君主をいただく サーマーン朝などのイラン系政権が樹立され、ペルシア文化が復興するようになった。 また、サーマーン朝^(d)のもとでは、中央アジアよりトルコ人マムルークがもたらされている。その影響もあって、トルコ人のイスラームへの改宗が進み、中央アジアのトルコ系のカラ＝ハン朝はイスラーム化した。アフガニスタンではサーマーン朝のトルコ系マムルークによって (59) (60) 朝が誕生し、北西インドへの侵入を繰り返すようになった。

当時のインド北部では、各地で (61) (62) と総称されるヒンドゥー勢力が王朝をおこし、あい争う状況が続いていた。12世紀にアフガニスタンに成立した (63) (64) 朝も、この状況に乗じてインド北部で勢力をのばし、やがて同王朝のマムルークであった (65) (66) がデリーで自立して、奴隸王朝を建てた。これ以降、インド北部には (67) (68) 朝と総称されるイスラーム政権があい ついで誕生し、やがてムガル帝国が成立するとともに、 ^(e) ヒンドゥー文化の影響を受けたインド＝イスラーム文化が発達していった。

インドのイスラーム化が進むと、インドと密接な貿易関係にあった東南アジアにも、しだいにイスラーム教を奉じる国家が成立していった。スマトラ島北部に興った (69) (70) 王国や、ジャワ島の東部から中部を中心に勢力を拡大した (71) (72) 王国はその例である。一方、元軍を退けて以来、交易によって栄えていたヒンドゥー教を奉ずる (73) (74) 朝は衰亡していった。

こうして、イスラームの勢力は多様化しながら、各地へと広がっていったが、16世紀ごろになると拡大を始めたヨーロッパ勢力と拮抗しあうようになっていった。

問1 文中の空欄 (35) (36) ～ (73) (74) にあてはまる最も適当な語句の番号を下記の選択肢から選び、解答用紙 A (マークシート) の解答欄 (35) ～ (74) にマークしなさい。

- | | | | |
|------------------------|---------------------|--------------------|------------|
| 11 アイバク | 12 アイユーブ | 13 アクスム | 14 アクバル |
| 15 アケメネス | 16 アズハル | 17 アチェ | 18 アッパース |
| 19 アブド＝ アッラフマーン 3 世 | 20 アミール | 21 アンダルシア | 22 イスマーイール |
| 23 ヴィジャヤナガル | 24 ウラマー | 25 ガズナ | 26 ガーナ |
| 27 カリフ | 28 キルワ | 29 後ウマイヤ | 30 ゴール |
| 31 コルドバ | 32 ササン | 33 サファビー | 34 スーク |
| 35 スルタン | 36 スワヒリ | 37 セネガル | 38 セルジューク |
| 39 ソンガイ | 40 チョーラ | 41 デリー＝スルタン | 42 ナスル |
| 43 バーブル | 44 ハールーン＝ アッラシード | 45 ファーティマ | 46 ブハラ |
| 47 ブルネイ | 48 マグリブ | 49 マジャパヒト | 50 マタラム |
| 51 マラケシュ | 52 マリ | 53 ムアーウィヤ | 54 ムワッヒド |
| 55 メディナ | 56 モノモパタ | 57 ラシード＝ ウッディーン | 58 ラージポート |

問2 以下の史実を年代順に並び替え、2 番目に起きた史実の番号を、解答用紙 A (マークシート) の解答欄 (75) に、4 番目に起きた史実の番号を解答欄 (76) にマークしなさい。

- | | | |
|---------------|-----------------|-------------|
| 1 ムガル帝国の成立 | 2 サファビー朝ペルシアの成立 | 3 ビザンツ帝国の滅亡 |
| 4 ナスル朝グラナダの陥落 | 5 ポルトガルのマラッカ占領 | |

問3 下線部 (a) について、改革以前の税制と、改革によって成立した税制を、100 字以内で対比させながら説明しなさい。答えは解答用紙 B の所定の欄に記しなさい。なお、解答の際には、次の4つの用語をそれぞれ必ず一度は使用し、その用語の部分に下線を付しなさい。(ジズヤ、ハラージュ、非アラブ人ムスリム、アラブ人ムスリム)

問4 下線部 (b) について、フランク王国のカール大帝およびその騎士たちと、イスラーム教徒との戦いをあつかった叙事詩の名前を書きなさい。答えは解答用紙 B の所定の欄に記しなさい。

問5 下線部 (c) について、隊商都市として栄え、16世紀には大学が建設されるなど、内陸アフリカのイスラーム文化の中心としても重要だったニジェール川流域の都市の名前を書きなさい。答えは解答用紙 B の所定の欄に記しなさい。

問6 下線部 (d) について、イランの民族詩人フィルドゥシーが、イランの歴史・説話・神話に取材して作りあげた長編叙事詩の名前を書きなさい。答えは解答用紙 B の所定の欄に記しなさい。

問7 下線部 (e) について、ヒンドゥー系の言語とペルシア語などが融合して形成され、現在ではパキスタンを中心にもちいられている言語の名前を書きなさい。答えは解答用紙 B の所定の欄に記しなさい。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

[1] 16世紀後半のイギリスでは、(77) (78) 朝最後の国王エリザベス1世のもとで、絶対王政の絶頂期を迎えた。1559年、(79) (80) を発布してイギリス国教会を確立し、^(a) 財政顧問にトマス＝グreshamを登用して貨幣を改鋳し通貨安定を図った。対外的には、国王 (81) (82) 治世下にあったスペインの制海権に挑戦し、オランダの独立を援助して、無敵艦隊に勝利した。国内では、失業者増加の危機に対する措置を講じ、また、^(b) 探検や植民地活動を積極的に展開し、アジアへの進出を目指して、1600年に東インド会社を設立した。その後、租税をめぐる王権と民衆の抗争が激しくなると、国王 (83) (84) やその子 (85) (86) は、王権神授説をとらえて専制的な政治を展開したため、^(c) 王党派と議会派の内戦が起こった。内戦の末、議会派の (87) (88) が王党派を破り、共和政が成立した。この間も、イギリスの重商主義政策は推進されて、1651年に制定された (89) (90) は、イギリスの植民地貿易からオランダの中継貿易を排除した。これに反発したオランダは、その後、イギリスとの3度の戦いの末、覇権を失うことになった。

[2] 他方、フランスでは、長期にわたる新旧宗派の対立で分裂したが、アンリ4世に始まる (91) (92) 朝の下で、絶対王政の全盛期を迎えた。1615年、国王 (93) (94) は、三部会の招集を停止して、宰相 (95) (96) を登用して、財政改革を推進するとともに、王権に抵抗する貴族やユグノーを抑えこんだ。国際政治の面では、三十年戦争の際に、新教勢力の側に立って、(97) (98) 家の神聖ローマ皇帝権力をくじこうとした。さらに、国王 (99) (100) が幼少で即位すると、宰相 (101) (102) による王権強化政策が継続された。貴族や高等法院は、王権の強化に抵抗して反乱を起こしたが、鎮圧されて、フランス貴族は王権に屈服した。国王は、^(d) 王権神授説を主張して、官僚制と常備軍を整備し、王権の財政基盤強化を図った。また、財政総監に登用された (103) (104) は、フランス東インド会社を再建し、また資本家に特権を与えて、^(e) マニファクチュアを育成するなどして、保護関税政策を展開した。イギリス、フランスなどのヨーロッパ有力諸国は、重商主義政策の下で、輸入の抑制を図りつつ、輸出工業の育成に努めて、植民地を求めて積極的に海外進出を行った。

[3] 18世紀のイギリスとフランスは、世界の各地域で衝突を繰り返した。英・仏両国は、ムガル帝国の皇帝や地方政権の認可の下で、^(f) 東インド会社を通じてインド経営に進出したが、帝国が内紛に陥ると、地方の豪族も巻き込んだ勢力争いを展開した。1757年、イギリス東インド会社の傭兵軍を率いた (105) (106) が、^(g) フランスと地方政権の連合軍を打ち破り、ベンガルにおけるフランス勢力は決定的な打撃を受けて、イギリス領インドの基礎が築かれた。北アメリカでは、スペイン継承戦争後の (107) (108) 条約で、イギリスはフランスからニューファンドランドや (109) (110) などを獲得した。ヨーロッパにおける七年戦争の影響を受けて起こった植民地戦争で、勝利を収めたイギリスは、1763年、(111) (112) 条約で、カナダとミシシッピ川以東をフランスから獲得した。こうして、重商主義政策の推進により、イギリス植民地帝国が築かれた。

問1 文中の空欄 (77) (78) ～ (111) (112) にあてはまる最も適当な語句の番号を下記の
選択肢から選び、解答用紙 A (マークシート) の解答欄 (77) ～ (112) にマークしなさい。

- | | | | |
|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 11 アカディア | 12 アンリ 4 世 | 13 印紙法 | 14 ヴァージニア |
| 15 ヴァロア | 16 ウィーン | 17 ウィンザー | 18 ウェストファリア |
| 19 ヴェルサイユ | 20 エリザベス 1 世 | 21 カルロス 1 世 | 22 クライヴ |
| 23 クロムウェル | 24 国王至上法 | 25 航海法 | 26 国民議会法 |
| 27 コルベール | 28 ジェームズ 1 世 | 29 シャルル 9 世 | 30 修道院解散法 |
| 31 首長法 | 32 シュリー | 33 ジョージ 1 世 | 34 審査法 |
| 35 スコットランド | 36 ステュアート | 37 チャールズ 1 世 | 38 チャールズ 2 世 |
| 39 テューダー | 40 デュプレクス | 41 統一法 | 42 ノルマン |
| 43 ハノーヴァー | 44 ハプスブルク | 45 パリ | 46 フェリペ 2 世 |
| 47 フェリペ 5 世 | 48 ブルボン | 49 フロリダ | 50 ヘンリ 8 世 |
| 51 ヘースティングズ | 52 マザラン | 53 メアリ 1 世 | 54 リシュリュー |
| 55 ルイ 13 世 | 56 ルイ 14 世 | 57 ルイジアナ | 58 ユトレヒト |

問2 下線部 (a) ～ (g) について、以下の (1) ～ (7) の設問に答えなさい。答えはいずれも解答用紙 B の所定の欄に記しなさい。

- (1) 下線部 (a) について、経済学において「グレシャムの法則」として知られる有名な格言を10文字で答えなさい。
- (2) 下線部 (b) について、当時の盛んな探検・植民地活動をモチーフに書かれた小説『ロビンソン＝クルーソー』の作者の名前を答えなさい。
- (3) 下線部 (c) について、このときの王党派と議会派の内戦を何というか答えなさい。
- (4) 下線部 (d) について、『世界史論』を著して、王権神授説を完成させたとされるフランスの神学者・政治学者の名前を答えなさい。
- (5) 下線部 (e) について、マニファクチュアの特徴を30字以内で説明しなさい。
- (6) 下線部 (f) について、当時のフランス東インド会社のインドにおける根拠地を一つあげなさい。
- (7) 下線部 (g) について、この戦いを何というか答えなさい。